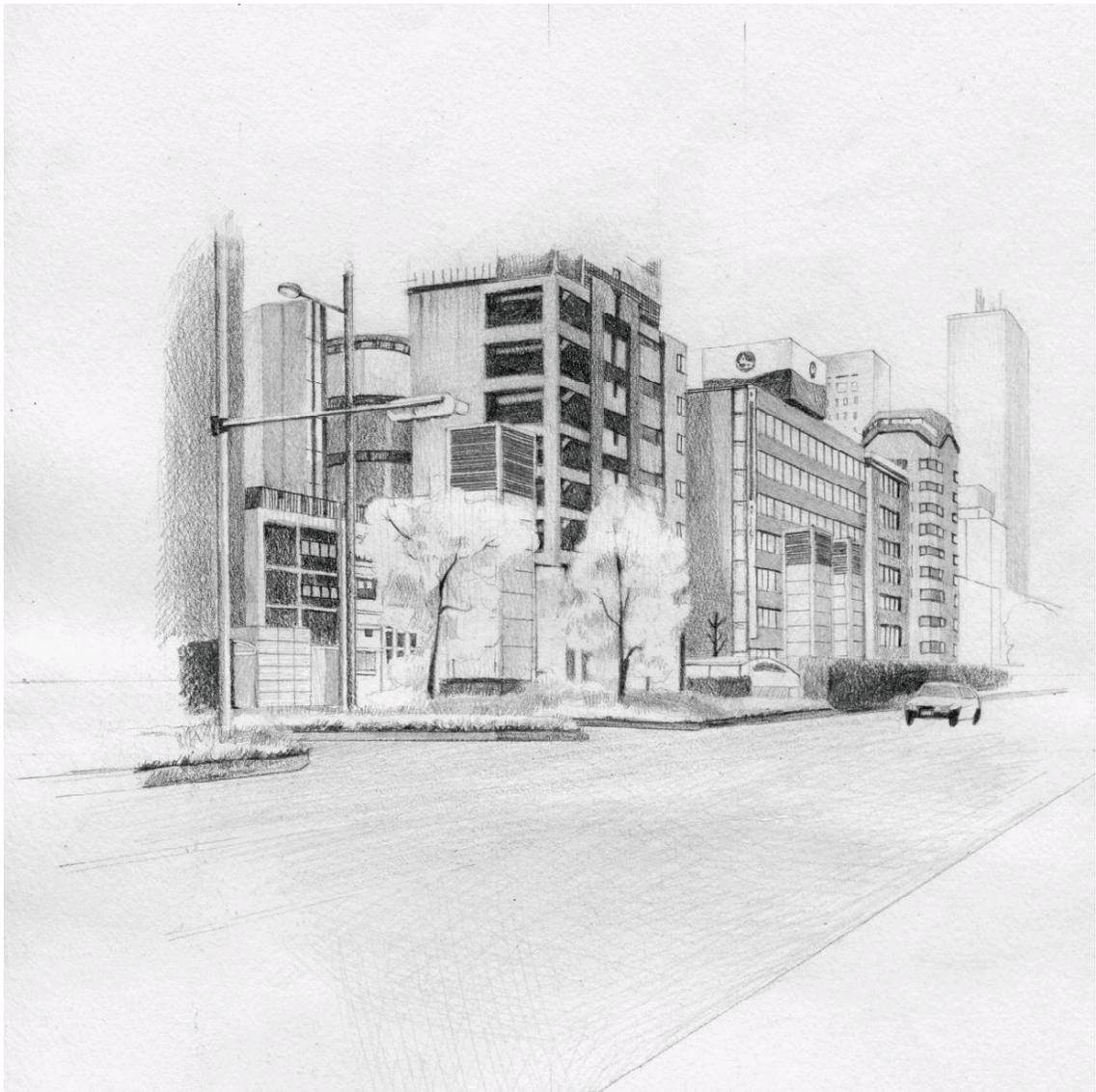


# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



をやの思いをにをいかけ、

<sup>うちうち</sup>  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

## 表紙のことば

さとは佐助と結婚以来、一男五女をお与え頂いた。

順を追って記すと、

明治十年十二月一日 光誕生(後

笠岡大教会二代会長夫人。長女)

明治十二年一月二日 なを誕生

(次女)

明治十二年三月十五日 なを出直

し(数え二歳)

明治十三年四月二日 鹿造誕生

(長男 後明治十七年一月三十一

日 伊賀市の川合家に入籍)

明治十四年十一月五日 リウ誕生

(三女)

明治十六年三月八日 お勢誕生

(四女)

明治十八年八月一日 フサ誕生

(五女 後明治四十三年五月十六

日、赤木梅太郎を養子に迎え

川合家をたてる)

明治三十一年四月二十日 上原リウ、伊賀市の川合清助の養女となる

明治三十二年五月三十日 川合鹿造出直し(東京・國學院在学中)

さて、ここで、初代会長の舅・上原佐吉と初代の主人・佐助について記す。

上原佐吉は文化十三年(1816年)三月十六日笠岡の洲崎に、笠原利吉お律の長男として誕生した。十二歳で志を抱いて大阪に出、備後屋・上原嘉兵衛(備嘉)に奉公した。佐吉は備嘉に三十歳まで勤めた。この間、十六歳で番頭に取り立てられた。そして三十歳で備嘉から備後屋の暖簾と上原の姓を貰い、上原家を創設し、長堀川中橋南詰に店舗を構えた。中橋北詰に備嘉の店舗があった。佐吉はその後、三年間通いでお礼奉公として備嘉に勤めた。佐吉は信仰心が厚かった。午前四時には起きて手水を使って、小田原提灯に灯を入れて、大阪市内の主立った神社、仏

閣を巡拝するのが日課であった。嘉永元年(1848年)から豊表商を始め、営業種を選ぶについて裏の長堀河畔で祈念を凝らしていたが、満願の日、水面に流れてゆくものが眼についた。急いで拾いあげると、一個の木株でそれに藺草が挿まっていたという。佐吉はこれを、根のある、いわば確実な商売は藺草の商いであるとの神の報せと悟り、豊表商を始めたという。豊表は広島県尾道市、福山市近辺から採れる備後表が品質最良とされる。備後屋佐助の豊表の商いは評判をとり、数年後には「江戸積みでは備佐が一番」と称されるま

でになった。

笠岡洲崎の笠原家は、佐吉の弟が継ぎ、屋号を濱屋と称し、当主は代々「儀七」を襲名し、通称「濱儀」と呼ばれ煙草の製造販売をしていた。さとの主人・佐助は嘉永三年(1850年)、濱儀の長男として誕生した。十二歳で祖母・お律の出直しに遭い、同年、父・儀七を失

い、続いて十四歳で継母・つるの出直しに遭った。佐助は従って儀七を襲名し、濱儀の経営に若くして苦勞するが、家運は傾き、伯父・佐吉を頼って大阪に出た。佐吉には嗣子がなく、佐助を養子として、娘分として上原家に入っていた川合豊(初代)を娶せ、後継とした。

この頃女性結婚すると姓も替わるが、大抵名前も替えるのが通例であった。教祖御伝の中にも出てくる。初代は豊(とよ)からさとに改名した。

備佐の商いは明治十年頃から急激に大きくなった。豊表の取引と共に、この明治十年末から新町三丁目(西店)を置き、北前船の間屋を開き、米、味噌醬油などの卸売りを始めた。こうして備佐の世帯が大きくなるにつれて、佐吉・八重夫妻は心齋橋三ツ寺豊屋町角に隠居所を設け、佐助・さと夫妻は当時有名な料理屋・西照庵近くに別宅を設けて住んだ。

(史料部長 上原繁道)

## 婦人会

## 委員 委員部長

## 後継者講習会

婦人会では、去る十一月二十二日、二十三日と、委員、委員部長後継者講習会を、開催しました。参加者二十名、託児十七名と大勢の方の参加を頂きました。この度は一泊二日の講習会でした。一日目、支部長様より、母として親としてそして女性として、どう通らせて頂いたら良いかとお話し頂きました。

その後、三班に別かれてねり合い、その後三曲の勉強、夜は四名の方の感話、夫々の立場でお話し下さって、とても良かったです。

二日目、大教会長様より、おつとめの理についてお話し頂き、前日の班に別れてねり合いをさせて頂き、様々な意見が出て時が経つのも忘れて、あちこちの部屋から談笑する声が聞かれました。又ゲームでは、楽しい一時を過ごしました。

閉講。神殿にて、大教会長様のおつとめの理のお話しを心に持って、支部長様を芯におつとめを真剣につとめさせて頂きました。教祖百二十年祭、後一ヶ月あまり、真柱様は、おぢばを賑やかにと仰せ下さいました。一人でも多くの方をお誘いし

ておぢばに帰らせて頂こうと誓いあって閉講しました。子供を連れ、又子供を家においておつとめ頂き、そして留守をお預かり下さいました、会長様、奥様そしてご主人様にお礼申し上げます。ありがとうございます。

(常任委員 中村 満子)

## 講習会で得たもの

福節分教会 藤井 理恵

私は、今年の5月に縁あって、埼玉から笠岡部内の山の中の教会へ嫁がせて頂きました。その後、8月に主人の会長就任のおはこび、そして10月には、その奉告祭と有難くも忙しい毎日を通して頂きました。

そして、奉告祭を無事につとめさせて頂いた次の日、上級教会より委員部長後継者講習会のお話しを頂き、その中で感話をつとめるようにとのお声を頂きました。

嫁ぐ前の東大教会では、このような講習会はなく、又感話をつとめるという事もあり、とても不安でした。

しかし、2日間の委員部長後継者講習会が、私にとりまして、気持ちの上でも、とても励みとなり、充実した楽しい時間を過ごさせて頂きました。この講習会で初めてお会いした方でも、どこかで

繋がりがあったりと、本当にお道の広さと、お道の深い結び付きを感じました。

そして、大教会長様のお話しでは、「おつとめ」についてお話しを下さり、改めておつとめの大切さを学ばせて頂きました。

又、本部の11月の月次祭では、生まれて初めてかぐらづとめを見させて頂き、言葉にならないほどの感激で、なお一層おつとめに対する気持ちが強まり、おつとめの素晴らしさを肌で感じさせて頂き、本当に感動致しました。

そして、支部長様のお話しでは、「神様から見えて使いやすい道具とならせて頂く事」又「受ける心を喜ばせて頂く事」この2つのお言葉が、とても心に残り、何に対しても心の使い方ひとつで変わるのだという事を教えて頂きました。

又、ねり合いでは個々の考えや意見を出し合い、とても良い雰囲気であり盛り上がりがありました。話しが次々に展開して横道に逸れたりしましたが、逆にそれがあったからこそ、色々な方々の方々の今まで通って来られた話しまで聞く事が出来て、大変勉強になりました。

この2日間の委員部長後継者講習会で、私自身プラスになる内容ばかりで、いずれ委員部長とならせて頂くにあたっての心構えとなりました。又、参加された方々が皆同じ立場という事もあり、話しが意気投合できた事で皆様からエネルギーを頂

く事が出来ました。そしてこれから、もっともっと経験を積み重ねながら少しずつ受ける心を作らせて頂き、つとめさせて頂きたいと思えます。

そして、いつも心の中に感謝と喜びを忘れず、日々通らせて頂きたいと思えます。

この2日間の委員部長後継者講習会で、お世話どりを下さった婦人会の先生方に感謝致します。有難うございました。

## 痛がる子供を前に

木津和分教会 丸山 哲子

十一月二十二・二十三日、私は大教会での委員部長後継者講習会に参加させて頂きました。

今年は一泊二日で開催され、二日がかりという事もあるのか、大体集合は、夕勤め前か、三・四時ごろ位ですが、今年は、一時三十分受付開始、翌日一時、終講式と、ほぼ二十四時間大教会でお世話になり、お勉強の時間を頂きました。

この講習会に参加し初めた最初のころ、私はただ参加して、楽しくて、それで終でした。でも、四・五年位前から、「去年支部長様はどんなお話を下さったか」、「それについて私はどうだったのか?」とほんの少しですがふり返っている自分に気がきました。

そしてこの後継者講習会は一年のおわりのほう

で開催され、今では私の反省の良い機会とならせて頂いております。もっとも反省だけで、前へ進んでいるかは、又、別なのですが……。

今回の講習会で、大教会長様のお話「おつとめについて」今の私にとって大変有難いお話でした。なぜおつとめをするのか? 一般の人達のようにただ身上、事情が治まればそれでよいのではない。お道を歩いている私達は、それを通して心の助けが必要であると……。

この秋より十才の長男が足に身上を頂いて一か月、それが治まるころ今度は、盲腸で入院、盲腸はよくなったのですがどうもお腹が痛い、すっきりしなくて又、一か月が来ようとしています。自分の事なら自分が辛抱してすむのですが、痛がる子供を前にどうしてやればよいのか、本当にこの二か月、色々悩みました。考えました。でも有難い事に子供は夜はゆっくりとねる事が出来ます。食事もとれて、しんどい時もありますが、学校もがんばって通っています。こういう状態の中、がんばっている息子を見て、「あー私がいかにしないと、イライラしたり落ち込んだりしている時ではないのだと……」

息子の担任の先生が言って下さいます「お母さん、ぐるぐる同じ所をまわって全然直らないみたいにするようなもんですよ、確実に上向いてあがっていますよ……」と。

私の心が助かるというか、私自身が親としてさげして、ほんの少しでも成人させて頂かないと……、なにもなければ反省する事も考える事も多分ないのでしょうから。

そういう有難い機会なのだ、最近少し、思わせて頂けるようになりました。

どうぞ子供といっしょに乗り越えさせて頂けますように……。

そういう状態の中でしたが、子供四人、家の者に預けて、独身気分、食事や洗濯という日常からも解放されて、一時、ホントに有難い時間を過ごさせて頂きました。

支部長様のお話、練り合い、女鳴物の練習、親子奥様の脳のオリンピックク……(?)という様な二種類のゲームもすごく楽しかったです。

又、今回は名札があったりプログラムがあったりと細かい所までお心づかい頂いてこの講習会がより身近なものであったように思います。

又、余談ですが、この六月にはおぢばへ教会長資格検定講習前期へもかえらせて頂きました。

教祖百二十年祭のこの旬に息子に頂いている身上を通して少しでも成人させて頂けます様又、出来れば一日も早く息子も元気にならせて頂けます様合わせてお願いしておわらせて頂きます。

# 談話室



## 夫婦 その一

神村分教会前会長 下田輝夫

結婚当日、花嫁は精神的にとっても疲れている。

新郎は、優しくいたわりの気持をもって、早くや  
すませて上げる位の心遣いが大切である。と何か  
に書いてあるのを目にした事がある。優しくと思  
いやりのある私は、忠実にこれを実行した。はや  
る心をおさえて……。

翌日から二人の生活が始まったが、ここから先  
は人並同様で、特筆すべき事は何もない。

理想と云うか希望と云うか、私は結婚したら四  
人の子供を授けてほしいと思っていた。それも只  
四人でなく男二人女二人、順番はどうであれ、きよ  
うだいとして二人二人与えてほしい、これが私の  
願望でした。

何故かと云えば、話相手になるには最低二人で  
ある。男は男同士、女は女同士となるとどうして  
も四人になるのは当前である。

私のきょうだいは兄三人姉一人に私の五人であ

る。親が居る間とはかく、居なくなった時、二  
人ずつ居れば話も出来るが、一人では話にならな  
い。姉の姿を見てみると、皆集まって話をしてい  
るが、いつの間にか居なくなる。どこへ行つたの  
かなと思えば、幼な友達の家へ行っている。折角  
きょうだいが集まっても男の世界と女の世界は当  
然違う訳である。暑い寒いの時季の話をしている  
間はよいが、仕事関係の話になると男と女では全  
然話が合わないのである。そこで姉はいつも友達  
の所へ行つて駄べつて来るのである。

これが二人ずつ居れば男は男、女は女と話が出  
来るから外へ出て行かなくてもよいので  
ある。それで私は二人ずつ授けて頂き  
たい、しかも仲の良い子をと願ってい  
た次第である。

そんな思いのある中に、や  
がて第一子を授けて頂いた。  
男でも女でもよい、まず  
元気な子を授けて頂きた  
い、誰もが思う心境と同じ  
である。そして予定日はいつ  
頃と聞いたら十一月十日頃の事  
である。

同じ生れるなら十月二十六日に  
生れたらいいなと二人で話していた。  
だんく〜と日が過ぎて十月二十五日、



団体列車で母がおぢば帰りをするので駅迄見送っ  
て帰って来たら、大事な女房が今日は調子がおか  
しいと云うのである。早速産婆さんに連絡をして  
来てみて貰ったら、今日生れるかも知れないとの  
事である。母が居るから安心していたのに、出て  
行った後にこうなるとは些か私もうるたえた。

幸い兄嫁が近くに居たので来て貰い、産婆さん  
も熱心な用木の方で、初産の場合早くから付添っ  
て下さり、心配はいらないと云われて、私もホッ  
とした次第である。

そして廿五日に生れるより、廿六日  
の方がいいネと云って下さり、貴男  
も側に居て上げなさいと云われ  
て、私はズツついていた。夜  
が更けるにつれ次第に痛みが増  
して来た。産婆さんが夜中の十  
二時を過ぎたら廿六日だから、  
十二時一分に生みましよう  
ネと笑い乍ら話して居られ  
た。

兄嫁が、私が時計を見て  
いると云っている間に、だん  
く〜時が迫り、十二時少し過  
ぎた頃無事に女の子が産声を  
上げたのである。

(以下次回に)

# 温故知新

## 年祭に寄せて

瑞雲分教会前会長 西村道栄

教祖百二十年祭の旬、年祭と申しますと大正生まれの私は、戦中戦後の時代の中から初代会長実母の道なくして今を語ることは出来ません。私が信仰と向き合ったのは、初代が教校別科へ前後約七カ月間本部に行かれた時の事です。当の本人は「求道精神」に燃え勇んで向かい、教祖のお雛型を追い求めた結果にあるに相違ないとしても、当時十六歳の私にはその離別の寂しさがの方が強烈に感じ、父にせつついた事が思い出されます。その教校別科より帰った母は、以前とは違い、まるで教祖のように感じました。そして三刀屋方面へ出かける毎日は憑き物が取り付いたかのように見えたものです。そんな道中の宣教所から、一人の青年が大東町の上級教会へ参拝することになりました。その人は竹のようにやせ細り一目で「肺結核」とわかるような姿でした、悪しくもその日は未明からの雪で凍りつくような寒空の中を、裸足で三里の道を歩いて「身上ご守護」を願う命懸

けの参拝でありました。その青年が三刀屋へ戻ってゆく途中で命絶えるのではと心配しながら見送ったのであります。しかし何度の運びがあったのか、その青年は見る見る元気を取り戻し、参拝する笑顔が高潮してくるのです。それは家人も寄り付かず、近隣の人達はその家の前を通るとき、口を押さえ足早に通り返ぎ、医者もさじを投げた重病人とは全く違う人でした。「三方に載せて」お供えをしてまで青年の一命を乞うた真剣なおたすけで、見事に花咲いた素晴らしい御守護は、その当時近在のうわさとなったようです。そのようなお陰もあり教会名称のお許し戴き代を重ねられて、いつしか私が三代会長としてお預かりする頃には、その青年が教会の重責役員として献身的に、私のような人生経験や布教経験の少ない者に、蔭と成り、忠となり支えて下さったのです。しかし、思わぬことが起こった晩年の姿がありました。

当時私の家族もいろいろな事情を得て教会に住み込んで参りました、後継者であった現会長も「役員先生」とおおき、つかえ、一方のことも覚えた頃に「後継者も雑多の事や何かと出来るし、勤めの準備も出来るようになったので私は少し身を引くようにする」とか？言って帰った年末。明るく一月二十六日、本部春季大祭参拝後の私に、「教会で遥拝をすませて皆に挨拶しての帰り、自分家の茶畑で倒れ出直した」との電話。思い返せば

「神一条の心定めでご守護戴いた身上」その「用向きを退いた」ことによる「天の与え」であったものと悟らせて頂いたのです。あの時強く止めていけば・・・しかし、その強烈な鮮やかなご守護は、家族や身内に容易に理解し、受け入れられるものではないものでありましょう「あれ程勤め、尽くしたのに」何故なんだろう・・・と。無い命をここまで連れて通り、立派な家屋敷も構え、長男長女もある普通以上の六十七才の生涯は、誠に教祖の御教えにお連れ通り戴いたのであり「本人の心どおりであった」と喜び勇ませていただいた事を昨日のように思い出します。初代会長から聞かせて頂いた座右の銘「何事も神様の御用が一番先に、それがご恩報じ」でありました。

今の時代にはそぐわぬ、大正生まれの老体、「教祖百二十年祭」に巡り合わせて戴く事が出来るのも、お連れ通り戴く「親神様教祖」のご守護あったればこそ、それは申すまでもありませんが、三代会長として初代会長の想いには遙かに届かぬ乍も、初代の心を大切に、御礼申し上げつつ、我を忘れて通らせていただいた二十三年、そのお蔭と想う今日この頃であります。

親々の 徳にいだかれ

三代並ぶ 月祭り

見せたい親は 心中に

立教百六十八年十一月



▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「実」、選六十一句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠 東悠分教会長夫人

田林 美智子

生かさされて

花も実もある人生を

▼教祖年祭

詩 かくしん

一、成人の節目だ 今日(けふ)は年祭だ

定命(じやうめい)を縮めて 現身(けんしん)隠(かく)されて

変わる事なく 導(みちび)かれた

ひながたの親 たたえよう

二、教祖(きょうそ)のひながた 目標(めく)に勤(こ)めきる

進む我(われ)らの 誠(まこと)の道(みち)は

神(かみ)の守護(しゆご)に 感謝(かんしゃ) 喜び

土地(ち)所に 陽気(やうき)ぐらしの種(たね)をまく

三、元始(げんし)まりに この世人(よじん)間(ま)創(つく)られた

親(おや)の思い(おもひ)に近(ちか)づく成人(せいじん)

つとめを教え さづけわたし

ひながたの親 たたえよう

◆年頭会議

【日 時】 1月20日午後2時より  
【会 場】 大教会神殿  
【対 象】 大教会役員・おつとめ奉仕者・教会長・布教所長

◆学生層育成者講習会

【期 日】 2月21日(火) おつとめ後、祭典講話として  
【会 場】 大教会神殿

◆婦人会 委員・直轄委員部長研修会

【期 日】 2月22日(水) 9時受付、9時半開講。  
【内 容】 9:45 支部長挨拶  
10:30 練り合い  
12:00 昼 食  
13:00 大教会長様お話  
14:00 支部総会について  
15:00 掃 除  
15:20 閉 講

【参加御供】 1、000円

◆笠岡女子青年おぢばがえり

一みんなて帰ろう! ぢばへ、おやさとへ!! 一

【期 間】 2月25日(土)・26日(日) 詰所泊  
【会 費】 3、000円  
【対 象】 女子青年層

\*詳細は各ブロック担当者までお問い合わせ下さい。

◆各行事に参加ご希望の方は、

各ブロックの担当者にお申し込みください

## 立教169年 笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	全体行事	ひのきしん	布教部	海外部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議 26 教祖120年祭	11~20 直属ひのきしん特別隊 21 献血ひのきしん 25~27 春季大祭話所受入		
2	2~15 部内巡教	16~28 本部食堂(島根ブロック)	26-27 教会長講習会 28・1 修養科修了講習会	
3	2~15 部内巡教			
4		11~20 直属ひのきしん特別隊 17~19 教祖ご誕生祭話所受入	4月 にをいがけ・おたすけ実修会 ~6月 (希望教会) 29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(上府ブロック)	28・29 修養科修了講習会	
6				
7		16~31 本部食堂(直1ブロック) 26~5 こどもおぢばがえり 25~5 こどもおぢばがえり 話所受入		
8			28・29 修養科修了講習会	22~24 英語講習会
9			9月 にをいがけ・おたすけ実修会 ~11月 (希望教会) 1~30 布教推進強調月間 22-23 布教所長講習会 28-30 全教一斉にをいがけデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1~15 本部食堂(直2ブロック) 25~27 秋季大祭話所受入		
11			28・29 修養科修了講習会	
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	27 話所餅場		
備考	◎常話会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員並びに直轄教会長会議 毎月29日 午後2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後2:00	註：ブロックの区分けは 直1：鶴山~明石市 直2：久松、東城~錦備 上府：上下、府中市	◎おかえり講話 7・12月を除く毎月25日 但し、4月は17日 いずれも午後7:00	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

※役員並びに直轄教会長会議：2月は末日、7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

部会 月	婦人会	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会	輸送部
1					25~27 春季大祭参拝
2	22 委員・直轄委員部長研修会 26 女子青年移動例会 (おぢばがえり)			21 学生層育成者講習会 28 教祖120年祭 学生おぢばがえり大会 (27 前夜祭)	
3			31~2 鼓笛バンド講習会 2 おつとめまなひ総会		
4	19(18) 婦人会本部総会			22~23 学生会おぢばがえり	17~20 教祖ご誕生祭参拝
5	23 笠岡支部婦人会総会				
6			21 縦の伝道講習会 (育成講習会)		
7		2 ひのきしん団参			
8			初旬 夏季伝道講習会 22~24 夏季錬成会		26~5 こどもおぢばがえり 団体列車1本
9		27~3 全分会布教推進週間			
10	28・29 こかん様に続く会	27 本部青年会総会			25~27 秋季大祭参拝
11	23 委員部長後継者講習会	1~24 一ヶ月ひのきしん隊			
12					<b>雅楽部</b>
備考	◎支部例会(毎月5日午前10時) ◎直轄委員部長連絡会(毎月次祭後) ◎女子青年例会日(毎月第4日曜日) ◎ひまわり会(毎月3日)	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~	◎教会おとまり会の実施		◎練習：毎月次祭前日 ↳ 勤後 ◎舞楽練習：毎月次祭日 ↳ 刻

## 十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいぢう、ハみなわが子たすけたいとの心ばかりで」と一列子供かわいいの親心のまに身体を御守護下さり季節の移り変わり等を通して味覚、視覚等五感の味わいもお与え下さり陽気ぐらしが出来るようにとお働き下さっているばかりでなく身上・事情を通して心の成人をお促し下さり陽気ぐらしとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます。しかしながら身上・事情が我が心の招きである事が分ならず心の反省どころか罪を与えられているかの様に思い誤り逆恨みしより陰気ぐらしの泥沼の深みにはまり行く人が多くいます事は誠に残念でなりません。お道に引き寄せて頂いた私共は日々喜びと感謝を心に湛えつつ朝夕に御礼申し上げると共に「たすけたい」との親心に応え一人でも多くの人に親心を伝えるべく自らの人をたすける心の涵養と実践を目指してにをいがけおたすけを通してたすけ一条の御用の上に勤め励ませています

その中にも今日の吉日は「たすけのもとだて」とお教え下されたおつとめをつとめる定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には日頃の御高恩に改めて御礼申し上げますと今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖年祭に向け三年千日と仕切って成人の歩みを進めてまいりましたが仕上げの年としての今年もあと一ヶ月教祖百二十年祭まであと二ヶ月というところまで来ました。果たしてお望み下さる成人にどれだけ近づく事が出来たか甚だ心もとないところであり大いに反省しなければならぬところでありますがいざここに到ってはもう只がむしゃらに進み切る他ありません。幸い岡山教区では十二月四日に一人おちば帰り団参が実施されますのでそれ等も大いに利用しつつにをいがけにおたすけに又よぶべく信者の育てにと邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には旬の理を受け精一杯に歩む皆の誠真実の心をお受け取り下さいましたすけ一条の上には尚一層の自由の御守護とお導きを賜りまして教祖百二十年祭には神人和楽の大きな喜びを味わわせて頂きますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



### 実践項目集計 (10月)

百万軒にをいがけ	60,791軒
おさづけのお取次	4,523回
身上事情お願い	797件



### 実践項目集計 (9月)

百万軒にをいがけ	92,043軒
おさづけのお取次	4,146回
身上事情お願い	888件

# 大教会だより

## ◎教会指令Ⅱ

### ◎恒例祭日変更願

笠岡 大教会

\*四月月次祭

16日↓21日

立教168年11月26日承認

### ◎任命願

油木 分教会

\*前任 黒瀬 修 三

\*新任 中村 邦 義

☆奉告祭 立教168年12月5日

立教168年11月26日承認

### ◎建築模様替及神殿増築

屋根葺替並附属建物増築願

瑞雲 分教会

☆遷座祭 立教169年4月6日

☆鎮座祭 立教169年5月5日

☆奉告祭 立教169年5月7日

立教168年11月26日承認

### ◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教168年12月14日終講

錦ヶ原 池 平 はるみ

### ◎第七七三期修養科

自 立教168年9月1日  
至 立教168年11月27日

#### \*教養掛

三ヶ月間 岡崎 真一

(大教会役員)

一ヶ月目 吉岡 貞彦

(吉田川分教会員)

二ヶ月目 上原 浩

(大教会役員)

三ヶ月目 三島 順教

(葦沼分教会長)

#### \*修了者

神邊 小坂 静宏

福芦 藤原 徳美

福勇 鳥井 智代

稲倉 藤井 和子

宇津戸 井上 トミコ

## 計 報

### 三島克巳氏

大教会承事

新山邑分教会長

十二月十二日出直されました。

享年 六十八才



子供の痛ましい事件が広島と栃木で起き、返ってこないわが子を悲しむ親は、狂わんばかりの悲痛にうちひしがれて居られる。もし私の可愛い孫が・・・何とかして犯人に一矢報いたい気持ちになるだろう。知人が「犯人の人権重視が許せん！被害者の親に一刺し二刺しさせて苦痛と恐怖のどん底へ落させてやりたいよ」と言っていたが、まるで「仇討御赦免状」じゃないかってね。「徳川三百年」の歴史にはそれが在った。大罪人は「市中引き回しの上、打首獄門」不義密通・姦通罪には「男女重ねて三つに切り殺す」とか、極悪非道の五右衛門は家族もろとも「釜茹での刑」に処されたのです。当然幕府に桶突く一族郎党は廃絶され、幕府に従順しても女子を人質として側室に召したのです。だから天下泰平二六五年、一五代続いたのではありません。今のご時世を乱す事件が無くないのは「人権を処遇」されたその手の犯人が「再犯率四八%」これでは被害者は浮かばれず、親族はいたたまれない。現実から逃避し静かに暮らすしか無いでしょう。現場で

は国選弁護士が「過去の冤罪事実」から犯人の人権擁護の立場で変わってきたのが実際、それを良い事に、刑期の軽い少年犯罪が横行し、外国人が出稼ぎに犯罪を手段としている向きもあるのです。今から「裁判制度」が変わるとか？ それこそ犯人の親・族の名前、顔写真を公表し、親を厳しく証人喚問して「育て方がまずいよ、今度は許さないよ」なんてね、これで犯罪の根絶になるのは・・・無理かな。私の少青年期の頃、巷に「やくざ」「侠客」が居たものです。歓楽街で遅くまで遊んでいると「早く帰れ、こんなところで遊んでいたらロクな人間にならんぞ」と叱ってくれた。それはある種の「治安維持」があったと言ったら過言か？ それを美化してはいません、そういう「世間のはぐれ者」を集めて「其処なりの行儀」で収めていたのでしょう。今は両親も怖くない、学校の先生も友達同様の時代、道徳が、善悪が見えなくなったのか？ 今こそ世界に向かって「親神様が作られた人類、親神様の子である我々、その兄弟を殺すのをやめて、陽気暮らししよう！」と声かけて、教祖百二十年祭の一年間を、将来を平和な世界にしよう」そんな毎日になろう今日から再出発しようぜ。

(に)